

2017年度国際版画美術館事業報告書【講座・イベント版】

プログラム名	「インプリントまちだ展2017」関連催事 ①中学校との連携授業 「誰かと繋がる版画制作 in 町田第二中学校」				
講師等	ながさわたかひろ氏（美術家）		担当者名	普及係 上村 牧子	
開催日・時間	2017年7月4日火曜日 13:20～15:10(学校時5、6時間目)			場所	町田市立町田第二中学校 体育館
				参加者対象	町田市立町田第二中学校3年生 (5クラス、177人)
参加者数	実績	収容人数	市民率	応募者数	当選倍率(受講歴による調整を実施)
	生徒177人	—	—	—	—
事業概要	<p>「インプリントまちだ展2017」の関連催事として、出品作家のながさわたかひろ氏を講師とした連携授業を、町田市立町田第二中学校の体育館で同中学校の3年生を対象に行なった。</p> <p>連携授業では1時間目にながさわ氏の作家活動をスライドを使って紹介し、2時間目に生徒代表の10人が、ながさわ氏の制作コンセプトに基づく版画制作を行なった。</p> <p>版画制作では生徒代表の10人をステージ前に集め、2人ずつの5グループに分け、ながさわ氏の実演を参考にグループ毎に版(スチレン版)を1枚作り、他の2グループの版と摺り重ねることで3版3色摺りの作品を制作した。5種類の作品が摺りあがったが、グループの組み合わせや画面上の版の配置、摺る色が異なることで、全く印象の異なる作品となった。その後、それぞれの作品に版を摺り重ねた人全員のサインを入れて完成させた。</p>				
ねらい	実技指導	展覧会関連	学校連携	友の会連携	その他
	<p>・「インプリントまちだ展2017」を案内し、来館を促進する。</p> <p>・ながさわ氏の作家活動を紹介することで、現代の美術家の活動を知ってもらう。</p> <p>・版画制作の実演を通して、抽象的なコンセプトの作品を紹介する。</p>				
主な収入	なし				その他の特定財源 0 円
事業経費	<p>●予算 150千円 ※9/2実施の公開制作も含む</p> <p>国際版画美術館展示事業>13委託料>49イベント業務委託料>インプリントまちだ(公開制作)150,000円</p>				
主な広報・取材等	広報・取材 なし				
反省点と改善方法	事前交渉	2016年10月、展覧会打ち合わせの際、作家に中学校との連携授業を依頼した。			
	受入れ校交渉	2016年12月、町田市立第二中学校の美術担当教諭に協力を仰ぎ、その後学校長に連携授業の実施を内諾していただいた。2017年4月に学校へ依頼書を提出した。			
	準備	作家と4回程度面談し、内容、進行、道具などについて打ち合わせをしたほか、詳細はメールにて確認しつつ準備をした。美術館の担当者はタイムテーブルの作成と、中学校への連絡を行なった。中学校へは打ち合わせ等のため3回出向いたほか、タイムテーブルや内容の確認などの細かい打ち合わせはFAXと電話で行なった。作家には参考作品(版を含む)の準備を依頼した。当日までスムーズに進行したことから準備は妥当だったと思われる。			
	広報	学校との連携授業だったため、外部へ公開せず、広報は無し。展覧会の記録にとどめた。			
	会場設営	設営の打ち合わせは美術館の担当者で中学校の美術教諭で行い、当日の設営は中学校が行なった。体育館のステージ下で版画制作と実演を行なうため、離れた席からも見えるようにビデオカメラでスクリーンに投影したが、会場の調光が難しく、投影した画像が見にくかった。暑い中、窓を開めることができず仕方ない状況であったが、今後同様の状況で行なう際の参考として対策を考えたい。			
	当日進行	<p>スライドレクチャー用の機材や、実演で使う版画用紙、インク等を中学校からご提供いただいた。その他ローラーやインク練台などの版画用具やスライド用画像などはイベント開始前までに適切に用意することができた。</p> <p>職場体験等で美術館に親しみを持つ生徒もおり、和やかに進行できた。授業時間を厳守するため、制作がスムーズに進むように気を配った結果、円滑に進み時間内で終了した。スクリーンに投影した画像を見せるため会場を薄暗くしたところ、生徒の反応がよく見えなかった。今後同様の状況になった場合は、美術館側のスタッフを増やして観客の反応を進行役に伝えやすくするなど工夫したい。</p>			
その他特記事項	<p>連携授業で版画制作に参加できた生徒は代表の10人だけであったが、その後、3年生の美術の授業時間(3時間)で美術教諭の指導のもと、同様の制作を実施していただき、代表以外の生徒にもながさわ氏のコンセプトを体験して頂くことができた。</p> <p>生徒からは「現役作家の生の声を聞いて良かった」「独りよがりにならない作品を目指す、ながさわ氏の姿勢がすごい」という感想があった。美術教諭からは「美術科のテーマ『コミュニケーション』と作家のテーマが一致していて良かった」というお話を頂いた。</p>				

中学校との連携授業の様子



- 1 **1時間目(トーク)**
作品や制作風景の画像を投影し、ながさわ氏の作家活動を紹介。



- 2 **2時間目(実演)**
ステージ手前に版画制作で使用する机と材料が設置してある。



- 3 ながさわ氏が制作手順を実演しながら紹介する。



- 4 生徒代表が2人ずつのペアになり、1枚のスチレン版に凹みをつけ、版を作っているところ。



- 5 版にインクを付けて刷る。



- 6 刷り重ねた作品にサインを入れ、完成させる。



- 7 制作した感想を発表してもらう。



- 8 ながさわ氏に作品を講評していただく。